

(土石流被害の防止による評価)

(区分) 国補

事業名	復旧治山(通常)	事業箇所	南アルプス市	芦安	芦倉	地区名	辰の沢(たつのさわ)	事業主体	山梨県
(1)事業概要					(3)事業の妥当性評価				
①課題・背景 本計画箇所は、南アルプス市芦安地区を流れる一級河川金山沢右支流上流に位置している。近年の集中豪雨による溪岸浸食や山腹崩壊の拡大により、溪流の荒廃が顕著となり、下流への土砂流出の恐れが高まったため、土砂流出対策を早急に実施し、保全対象の保護を図る必要がある。					①公共関与の妥当性(行政が行うべき事業か) ・森林法第41条第1項に規定された「保安施設事業」に該当				
②整備目標・効果					②事業執行主体の妥当性(県が行うべきか) ・森林法第41条第3項の規定により都道府県知事が整備				
□主要目標 ○土石流災害の防止 保全対象 人家20戸 市道200m 林道1000m 土砂整備率 (現況)65%<70% ※ 災害実績 有(H27年9月9日台風18号) ※ 重要公共施設 有(避難場所 芦安チロル学園) ※ (※ 評価基準値)					③経済妥当性 費用便益費 便益(B)÷費用(C)= 3.18 > 1.0 ・便益(B)= 767 百万円 ・費用(C)= 241 百万円				
□副次目標					④事業実施・規模の妥当性 ・流域内は山腹崩壊が発生し、不安定土砂が堆積しており、下流へ流出する恐れがある。 なお、砂防ダムの計画はない				
□副次効果					⑤整備手法の有効性 ・保安林機能の回復を図る目的から治山事業による整備が有効				
-					⑥環境負荷への配慮 ・切土法面は緑化し、裸地を残さない ・使用機械は排ガス対策型とし、環境負荷を軽減する				
-					⑦事業計画の熟度 ・地元南アルプス市より強い要望あり				
					<妥当性評価> ・7項目すべて妥当であることから、妥当と判断				
					(4)事業間優先度評価 ・貢献度ランク: a 副次効果ランク: 2 優先度評価: I				
(2)整備内容と整備量					(5)総合評価				
①整備内容 谷止工3基・山腹工0.75ha					○				
②整備期間 平成29年度～平成32年度					-				
③総事業費 255百万円(国費 115百万円(1/2) 県費 140百万円(1/2))					-				
④全体計画 平成29年度 谷止工1基 70百万円 平成30年度 山腹工0.32ha 55百万円 平成31年度 山腹工0.43ha 70百万円 平成32年度 谷止工2基 60百万円					【事業位置図等】				
⑤規整備内容・期間・事業費 平成 3年度 鋼製自在枠工1基 26百万円 平成 4年度 鋼製自在枠工1基 22百万円 平成 6年度 谷止工1基 37百万円 昭和57年度 谷止工1基 9百万円 他 谷止工等 32基 1,677百万円					省 略				